

中央研究院歴史語言研究所との 協約締結

2016年2月17日、松村恵司所長が台湾・台北市内の中央研究院歴史語言研究所（以下史語所と略称）を訪問し、史語所の黄進興所長とともに「国立文化財機構奈良文化財研究所と中央研究院歴史語言研究所の研究協力に関する協約書」に調印し、研究協約を締結しました。

奈文研と史語所は、どちらも文化財研究の中心的拠点として、出土文字資料の研究や保管・公開において重要な役割を果たしている機関です。

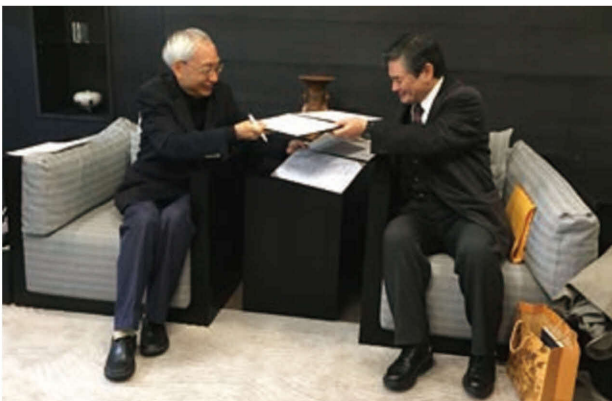
奈文研は日本における木簡の調査・研究の中心拠点であり、先端的な研究の展開や調査手法の開発のみならず、資料集やデータベースによる資料公開もおこなっています。史語所は1928年創設の分厚い研究の伝統を誇り、報告書の刊行や漢籍文献データベース等の多様なデータベースの公開、簡牘^{かんじやく}の意欲的な展示等、資料公開にも精力的に取り組んできています。

本協約では、こうした両研究所がもつ様々な研究の蓄積やノウハウを交換することで、木簡・簡牘の研究資源化および研究の促進・深化を目指します。

また、短期的な成果を狙うのではなく、無理をしない、細く長い研究協力の継続を目指している点は、本協約の特徴といえます。これは、両研究所の知的資源の深みと豊かさを考えた結果、導き出された方向性です。

現在、木簡・簡牘資料の画像取得方法についての技術交流を進めており、近々史語所から刊行される『居延漢簡(参)』にはその成果が盛り込まれる予定と聞いています。今後さらに多様な交流が進み、豊かな成果が上がるのが期待されます。

(都城発掘調査部 馬場 基)



笑顔で協約書に調印する両所長